

I 事業実施状況

令和8年6月22日



国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

《目次》

1. 事業実施状況

目的・施設規模

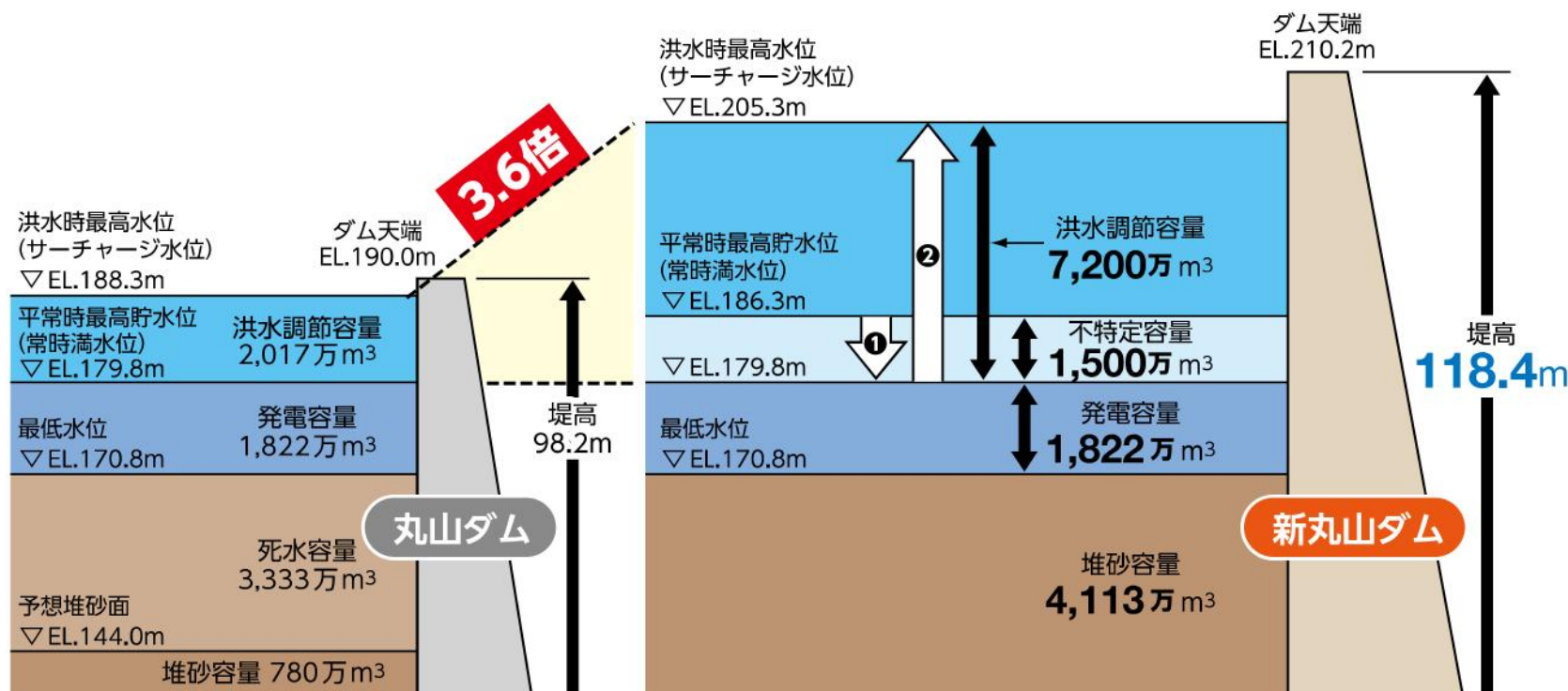
工事工程・進捗状況

工事の状況

新丸山ダム建設事業における環境保全の取り組み

(1) 目的・施設規模等

- 新丸山ダム建設事業は、既設丸山ダムの下流47.5mの位置に、20.2m嵩上げした新丸山ダムを建設し、洪水調節機能等の向上・強化等を可能とするものです。
- 1. 【洪水調節】一戦後最大規模（昭和58年洪水と同等規模）の洪水の安全な流下ー
既設丸山ダムに比べ約3.6倍となる7,200万 m^3 の洪水調節容量を確保します。
- 2. 【流水の正常な機能の維持】ー新たに河川環境の改善等の増進ー
流水の正常な機能の維持と増進を図るため、1,500万 m^3 の容量を確保します。
- 3. 【発電】ー水力発電の増電ー
新丸山ダムの建設により、発電を最大出力188,000kWから最大出力210,500kWへ増電を行います。



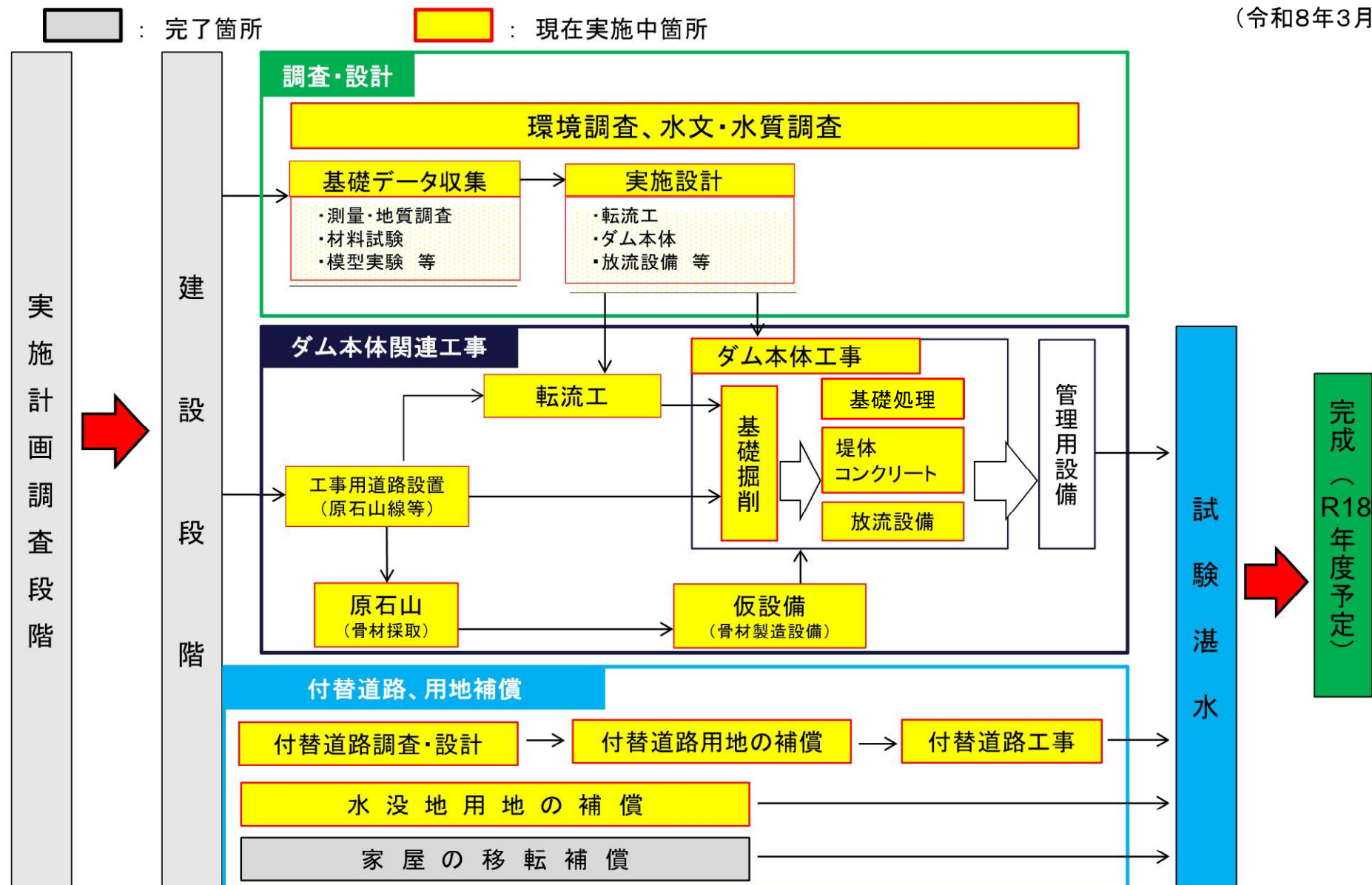
- ①: 洪水貯留(洪水調節)の準備をするため事前に水位を下げる操作(予備放流)
②: 洪水貯留(洪水調節)を行う操作

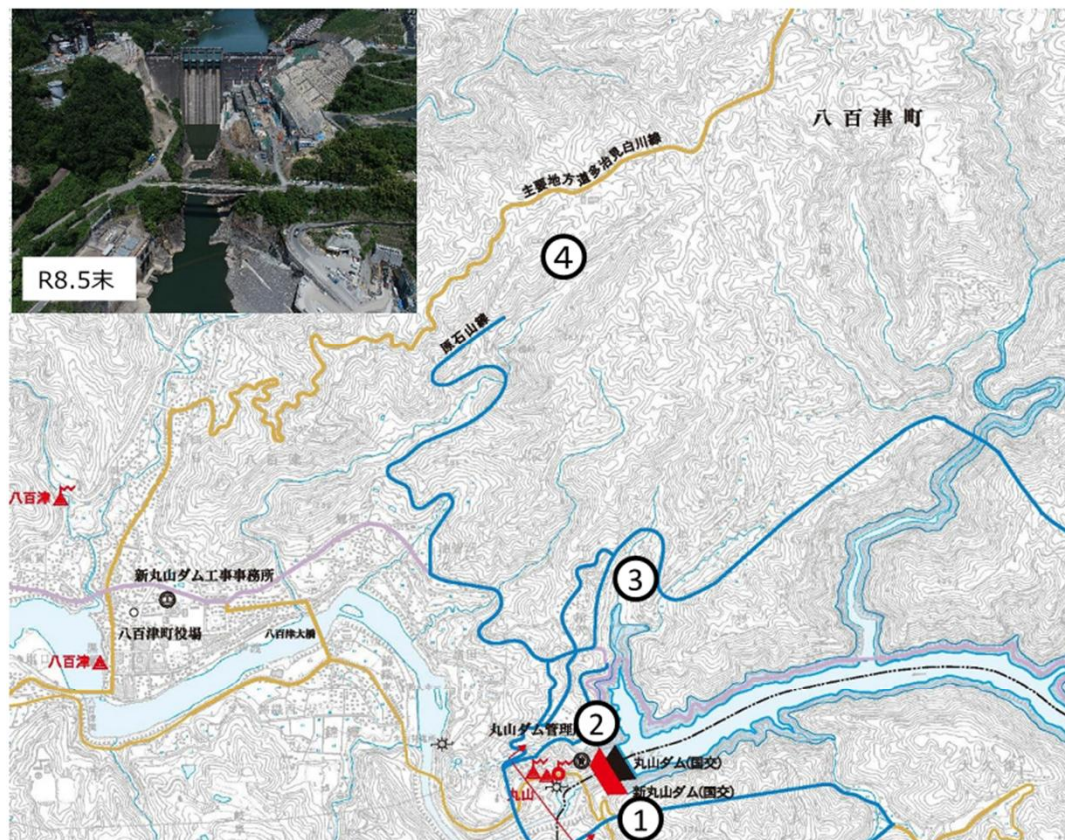
(2) 事業工程・進捗状況

3

- 令和3年度からダム本体工事に着手し、令和6年度からコンクリート打設を開始しており、工事が進捗しています。

(令和8年3月末時点)





令和6年度 新丸山ダム本体建設第2期工事

令和7年度 新丸山ダム常用洪水吐放流設備工事

①ダム本体左岸

- ・ダム本体のコンクリートを構築しています
- ・ゲート設備の設置に使用するタワークレーンをR8.4月に設置しました(右写真の赤破線の箇所)
- ・ゲート設備の設置を開始します



R8.3末時点



R8.5末時点

②ダム本体右岸

- ・ダム本体に用いるコンクリートを製造しています(右写真上の赤破線の建物)
- ・ダム基礎部の硬い岩盤を出すため発破等を併用しながら掘削し、法面の保護工を行っています(右写真下の赤破線の箇所)



R4.11末時点



R8.5末時点

③骨材製造設備

- ・ダムのコンクリートに用いる石や砂(骨材)を製造しています



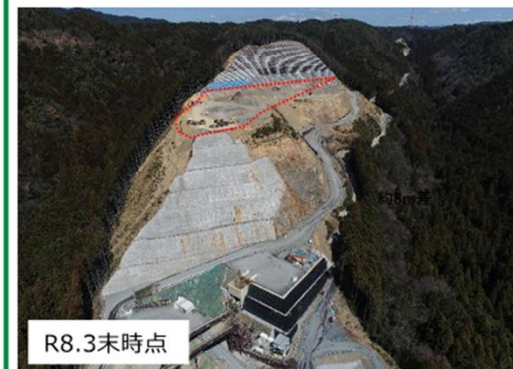
R4.11末時点



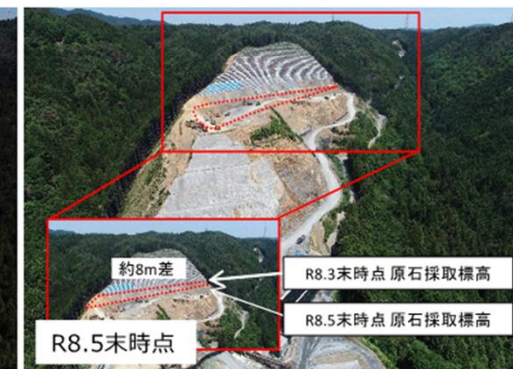
R8.5末時点

④原石山

- ・R8.3末時点と比べて約8m下の標高でダムのコンクリートに用いる石や砂(骨材)となる原石を採取しています(右写真の赤破線の箇所)

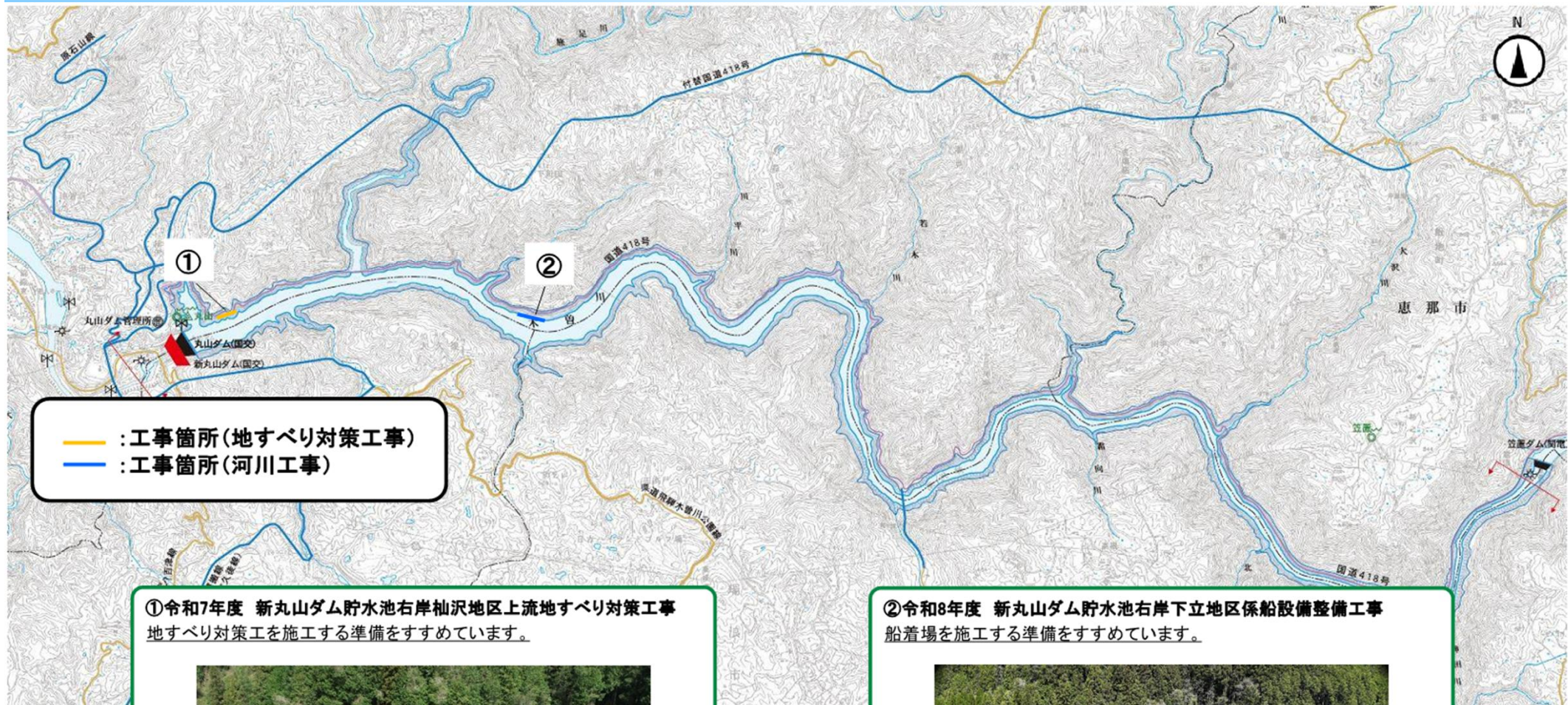


R8.3末時点



R8.5末時点

約8m差
R8.3末時点 原石採取標高
R8.5末時点 原石採取標高



①令和7年度 新丸山ダム貯水池右岸杉沢地区上流地すべり対策工事
地すべり対策工を施工する準備をすすめています。



R8.4末時点（着手前）

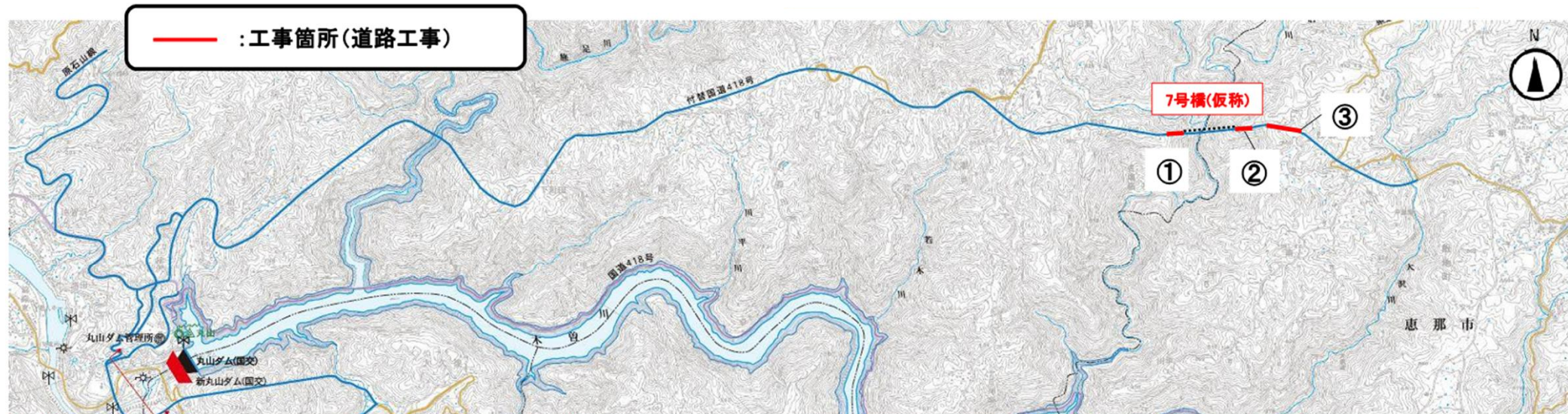
②令和8年度 新丸山ダム貯水池右岸下立地区係船設備整備工事
船着場を施工する準備をすすめています。



R8.4末時点（着手前）

(3) 工事の状況 ～付替国道418号～

6



①令和6年度 新丸山ダム国道418号7号橋潮見下部工事
掘削・法面の施工をすすめています。



②令和6年度 新丸山ダム国道418号7号橋飯地下部工事
法面の一部が崩落したため、復旧対応を行っています。



③令和8年度 新丸山ダム国道418号西山地区道路整備工事
土工を施工する準備をすすめています。



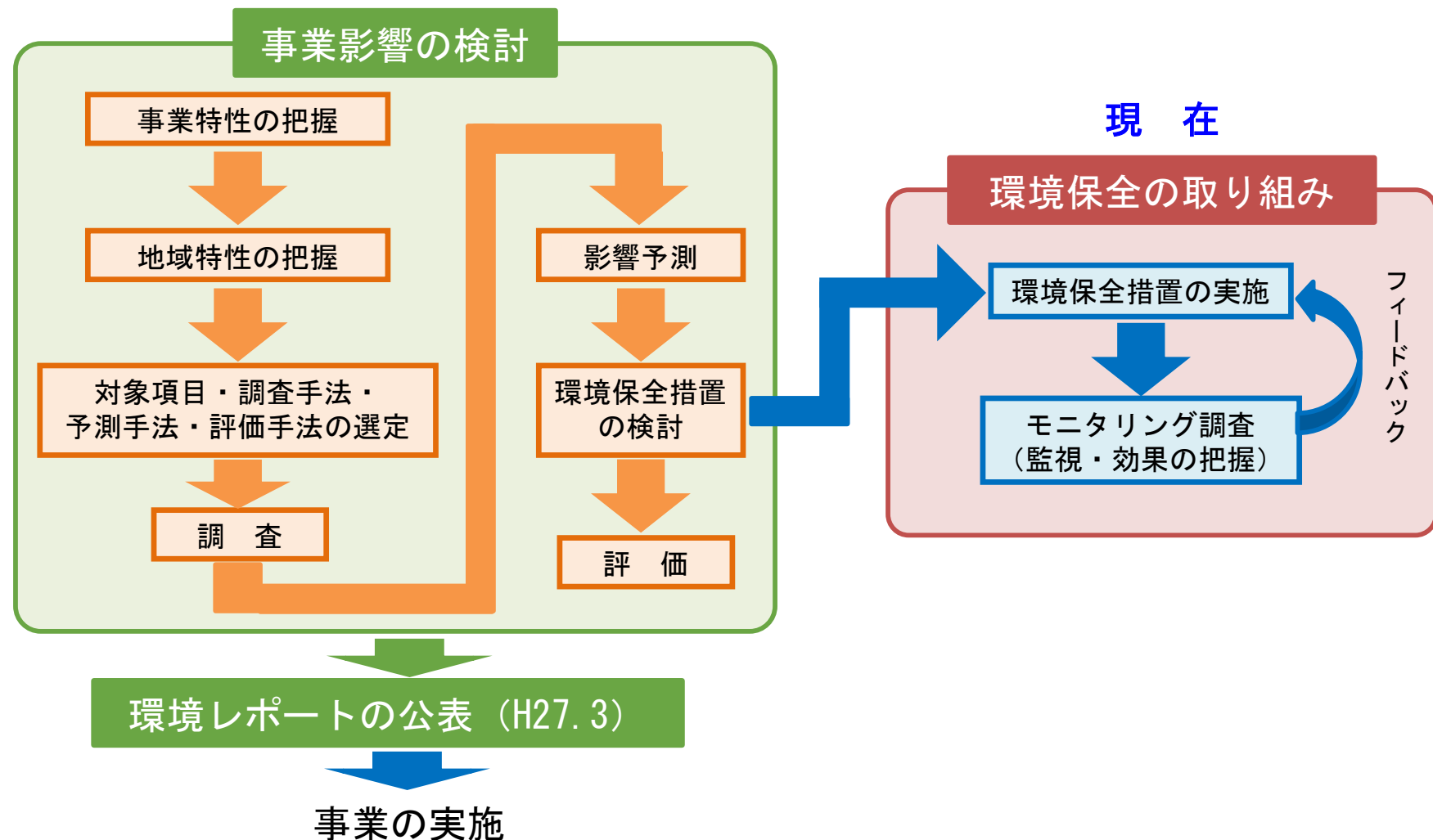
(3) 工事の状況 ～五月橋の架け替え～

7



(4) 新丸山ダム建設事業における環境保全の取り組み

- 新丸山ダム建設事業は、環境影響評価法（法アセス）施行以前に工事着手していることから、法アセス対象外のダム事業ですが、事業による環境への影響を把握して適切な環境保全を行うため、影響予測・評価及び環境保全措置等について法アセスに準じた検討を実施し「新丸山ダム建設事業における環境保全への取組（環境レポート：平成27年3月公表）」としてとりまとめ、事業の実施に至っています。
- 事業の実施にあたっては、委員に助言・指導をいただきながら、環境保全措置等を適宜実施するとともに、モニタリング調査によりその状況を監視しながら進めています。



(4) 新丸山ダム建設事業における環境保全の取り組み

9

《参考》新丸山ダム環境調査検討委員会の開催状況

委員会	主な経緯
第1回:平成5年9月	・昭和55年～平成4年に実施した環境調査の結果報告と今後の調査内容等について検討
第2回:平成6年1月 第3回:平成6年11月 第4回:平成7年3月 第5回:平成7年11月 第6回:平成8年3月 第7回:平成9年3月	・主に新旅足橋建設によるクマタカへの影響について検討 ・「新旅足橋架橋ワーキンググループ」を設置して、クマタカへの影響と保全対策について検討
第8回:平成12年12月 第9回:平成15年2月 第10回:平成15年9月 第11回:平成16年3月	・付替国道418号で試行しているカルバートボックスによる動物の移動路確保、斜路付側溝の設置等の保全対策について検討 ・生態系の現状把握と解析方法について説明し、既往調査をとりまとめた環境レポートの内容等について検討 ・クマタカの繁殖状況の調査結果の報告
第12回:平成17年3月 第13回:平成18年3月 第14回:平成19年1月	・環境影響評価に準じて環境保全について取り組むため、ダム下流側を主体とした生物相補足調査等に関する調査等について検討 ・予測手法、環境レポートの構成や内容について検討
第15回:平成22年3月 第16回:平成24年3月 第17回:平成26年2月 第18回:平成26年8月 第19回:平成27年3月	・モニタリング調査結果、環境レポートの構成や内容について検討 ・重要な種の補足調査結果等について検討 ・環境影響検討(水環境、動物、植物、生態系)について検討
平成27年3月	・「新丸山ダム建設事業における環境保全への取り組み(概要版)」公表※
平成29年6月 平成30年12月 令和2年12月	・原石山線における夜行性鳥類を対象とした調査の必要性について検討 ・付替国道における植物の保全対象種の影響有無について再検討 ・大西瑞浪線の発破作業に伴うモニタリング調査の必要性について検討
第20回:令和3年3月	・ダム本体工事へ向けた対応について検討
令和6年2月	・現地視察会

《参考》新丸山ダム環境調査検討委員会の開催状況

■ 前回（第20回）検討会の開催概要

検討会	第20回新丸山ダム環境調査検討委員会
日時	令和3年3月25日 14:00～15:15
開催場所	八百津町ファミリーセンター 2階 研修室1,2
出席者	委員 事務局
開催主旨・内容	（委員長）西條 好迪：自然学総合研究所 （委員）大塚 之稔：日本野鳥の会岐阜 （委員）梶浦 敬一：ぎふ哺乳動物研究会 （委員）駒田 格知：名古屋女子大学 （委員）野平 照雄：自然学総合研究所 （委員）松尾 直規：中部大学 新丸山ダム工事事務所 調査課 ※オブザーバー：丸山ダム管理事務所 ○ダム本体工事へ向けた対応について検討 （当日の次第） ・環境保全へ向けた取り組みについて ・ダム本体工事に向けた対応について

■ 令和5年度の現地視察会の開催概要

検討会	新丸山ダム環境調査 検討委員現地視察会
日時	令和6年2月26日（月） 13:30～15:40
開催場所	新丸山ダム工事事務所 丸山ダム管理支所屋上、丸山ダム天端
出席者	委員 事務局
開催主旨・内容	（委員長）西條 好迪：自然学総合研究所 （委員）大塚 之稔：日本野鳥の会岐阜 （委員）梶浦 敬一：ぎふ哺乳動物研究会 （委員）駒田 格知：名古屋女子大学 （委員）松尾 直規：中部大学 新丸山ダム工事事務所 調査課 ○本体工事着手後の環境保全対策の実施状況について意見交換及び現地視察 （当日の次第） ・事業の進捗状況と環境保全の取り組み状況 ・現地視察

